

【平成 24 年度新たに取り組んだ公益目的事業】

私ども春日会では、これまでに「谷中小唄めぐり」「一葉小唄ごよみ」「若草ライブ」の他、恒例の「研究会」「慈善会」「講習会」など数々の公益目的事業を実施して参りました。しかし一般財団法人への移行を目前に更に一層の公益目的事業の拡大を図り、伝統芸能の振興と普及という社会の要請に応えるべく「小唄体験教室」「伝統文化講座」更には「ライブ助成」など注目される事業を実施、大きな関心を集めることが出来ました。

1、ワークショップ-小唄 1 日体験教室-

財団法人春日会として、初めてのワークショップ「小唄の体験教室」が熱気に包まれて終了しました。初心者の方に「小唄に触れて頂く…」ことが目的で、募集はインターネットを始め、邦楽の友、伝統文化新聞などを通じ行いました。早くから定員に達し、「見学だけでも…」との申込みも出るなど、小唄によせる関心の高さが示されました。

当日は、理事の春日とよ徳花師の指導の下、春日とよ花扇、春日とよ美英昌、春日花次の皆様が助手をつとめ、約 2 時間熱心に小唄の体験にいそしみました。

先ずはじめに、とよ徳花師が本日勉強する「梅雨の晴れ間」「味」の模範演奏、続けて講習生全員で唄の勉強。休憩を挟んで後半は三味線の勉強と進み、最後には何とか全員唄と三味線で講習曲 2 曲の弾き唄いを行う事が出来ました。

2、伝統文化講座

春日会が、昨年度最重要事業の一つとして位置づけました「伝統文化講座」の第一回講座が、十二月八日（土）葛西聖司さんを迎えて春日会館ホールにて会場に入りきれぬほどのお客様を迎えて行われました。

葛西聖司さんは NHK のアナウンサーとして、主に歌舞伎、文楽などの伝統芸能番組を中心に大活躍、その解りやすいお話しとソフトな語り口で多くの方を魅了してきました。それだけに、葛西聖司さんと身近に接しての小唄を中心にした伝統芸能の魅力についてのお話しは、多くの皆様の関心を集めたのか、定員を遙かに超える皆様にお集まり頂きました。

募集は、チラシなどの他インターネットなどでご案内しましたが、早くから定員に達し、その後も参加の申込みが続き「満員になりました…」と申し上げても「立ち見でも…」との熱心さに係のものも何とか詰めてと応じたため、当日は会場ギリギリの満員状態。寒さも一段と厳しい時期でしたが、席の会場と葛西さんの来場者の心を掴まえて離さぬ楽しい、内容のあるお

話しに熱気に包まれ、窓を開ける程でした。

終わり次第、ご来場者からは「次回はいつ…」とご質問が出るほどの好評。長年伝統芸能に深く関わってきた葛西さんの講演に、短い時間でしたがご来場の皆様は大満足の様子でした。

公演の内容（要旨）

オペラとかオーケストラなどの様に西洋の芸能は、大きな会場で声を大きく響かせて行われるものが多いが、日本の伝統芸能は、広い空間ではなく比較的狭い空間で行われるものが多い。歌舞伎の様なものもあるが、それとて西洋の劇場に比べるとはるかに小さい。伝統芸能は、多くの人へ…ではなく少ない人の為に、「あなた…」の為に演じられるものが多い。まさに小唄の世界である。

私は大学で教えているが、いまの学生は「いろは…」が言えない。伝統芸能には、「仮名手本忠臣蔵」や「菅原伝授手習鑑」など「いろは…」に込めた様々な芸能がある。また学生に小唄などを聴かせ、その歌詞を書かせたりするが、当初は全くちぐはぐな歌詞を書き取っている。でも今日の世の中ではこれが常識で、直ぐに歌詞が聞き取れる会場に居られる方々は、むしろ「異常」である…等々。この後様々なお話しの中で少しずつ歌詞を理解し内容を理解する様になるお話し、更に一度理解したなら異なる歌詞などにも理解が早まると言うお話し、また芭蕉の句で「果たして蛙は池に飛び込んだか…」など、楽しいお話しで、あっという間の1時間15分でした。

公演の様子は映像をインターネットで公開していますので、是非ご覧下さい。

（春日会ホームページ (<http://kasugakai.jp/>) の Top ページ「お知らせ」の2行目「伝統文化講座」第一回公演をクリック)

3、ライブ助成

告知が十分でなかった為か、或いは申請に当たって経費内容の提示が必要の為か、残念ながら応募が少なく、平成24年度は1件の助成にとどまりました。

4、小唄作品研究会

小唄の研究家の把握など、現状の調査を行いました。